

SciREXセンターインタビューの声 2020

2021.04.15
SciREXセンター

◆ 目的

政策研究、政策実務に関心のある学生に対し、実践的な業務経験を提供することにより、学生の皆様の学修の深化に寄与するとともに、政策研究、政策実務に対する理解を深めていただき、当分野に携わる人材の裾野を拡大するため、インターンを募集します。

◆ 採用人数：年間10名程度

◆ 採用期間：2021年4月から2022年3月末まで

◆ 修了要件

- ✓ 修了前にプロジェクトリーダーとSciREXセンターに対して、研究・調査内容についてその成果を報告
- ✓ 修了に必要な勤務時間は、70時間

◆ 実績

2016年	8名	東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、大阪大学
2017年	7名	東京大学、一橋大学、九州大学、滋賀大学
2018年	8名	東京大学、東京外語大学、中央大学、一橋大学、GRIPS、留学前ギャップイヤー
2019年	8名	東京大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、慶應義塾大学、津田塾大学、Haverford College
2020年	15名	GRIPS、東京大学、京都大学、一橋大学、名古屋大学、慶應義塾大学、Mount Holyoke College、Soka University of America、Columbia University、Cornell University



プロジェクト：「SDGs 達成に向けた破壊的・インクルーシブ・イノベーションの可能性」

大学院で政策を学んでいたことから、実際の研究プロジェクトを通じた政策研究に関心を持ったことがインターン参加のきっかけです。大学院での産業政策の授業や個人的に産業開発に関心を持っていたことから科学技術イノベーション政策についてより深く学べる機会を探し破壊的包摂的イノベーションのプロジェクトに参加しました。インターンの業務では、近年注目を集めているインパクト投資や資金調達手法であるベンチャーキャピタルの動向についてリサーチを行いました。コロナ禍だったこともあり、基本的にリモートでの作業が中心となりましたが、インパクト投資やベンチャーキャピタル業界の有識者の方々とビデオ会議などに参加し意見を聞くことができたのは貴重な機会となりました。2ヶ月間のインターンを通じて、今後のキャリアに生きる学びを得たと思います。



プロジェクト：「地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析」

私は、そもそも心配性だったせいか自然災害のリスクについて常に興味があり、インフラ事業における災害リスクへの対応の分野で社会に貢献したいという漠然とした思いを持っていました。今回、地震・防災研究の成果を、社会の防災対策に結びつけることを目的とする「地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析」プロジェクトに参加させていただけたことで、その思いが強くなったように思います。

今日本では、首都直下地震や南海トラフ地震の将来的なリスクが予測されています。しかし、そのリスク情報を地域ごとの特性を踏まえ、具体的な防災政策に反映させることはたやすいことではないことをプロジェクトを通じて実感しました。愛知県東浦町の方々にご協力いただいて開催した、複数のシナリオを用いて地域の防災を考えたワークショップでは、市民の方々、自治体で防災業務に携わる職員、水道・電気の事業者の方からお話を伺う貴重な経験を得ました。実際の政策に落とし込む際には、多様なシナリオ考察が重要であることを知ることができたことは、大きな財産になりました。

本インタビューは、私にとってレベルの高いものでしたが、防災対策をプロジェクトメンバーと議論を重ね、探求したいと考える方にお勧めです。



プロジェクト：「研究力向上に向けた新たな測定指標の開発：各研究文化に適合した分野別 指標と組織・ネットワークの機能指標」

私は、橋渡し研究プロジェクトに参加させていただきました。大学で文化的側面から医療を研究しておりましたが、もう少し医療分野に関する見識を得たいと思ったからです。研究では、暖かい先生方スタッフの皆様に見守っていただきながら進めることができました。また、色々な医療機器開発の現状や産学連携に注目し、今の課題や今後の将来に何が必要であるか実感しました。特に、現行のシーズA,B,Cという枠組みを超えて、もっとシーズの拡充が必要なのではないかという確信を得ることができました。半年間、大変貴重な時間を過ごすことができ、大学での研究活動にも生かしていきたいと考えております。SciREXセンターを通して、様々な研究者の皆様や、政策に携わる方々の意見を伺うことができ大変勉強になりました。



プロジェクト：「イノベーション創出の基盤強化のためのメカニズム分析：SPIAS を活用して」

今回のインターンは、理論的な研究がどのように実社会で活用されるのかを意識することができた貴重な機会でした。私は本PJの中で、企業と研究者とが共同研究を行う際、どのようなすればお互いに適切なパートナーを見つけることができるのかについて、ネットワークの枠組みを用いた研究課題に取り組みました。これまでは、企業がどのようにして研究者を探しているのか曖昧なところが多くありましたが、インターンを通じて実際にそのプロセスを知ることができたことは貴重な経験となりました。また、共同研究者を探す企業が何を知りたいのか、どのような研究が彼らの役に立つのかななどを強く意識する必要があり、これから研究を進める上で新たな視点を得られました。本PJでは、幅広い研究課題に取り組むことができるので、広く政策研究に興味のある方にとっては、その研究がどのように実社会で活かされるのかを学べる貴重な機会になると思います。



プロジェクト：「新興・融合科学領域における「予見・分析手法」の検討と人的ネットワークの形成」

生命科学研究の基礎研究に携わる傍ら、科学技術だけでは社会課題を解決出来ないこと(=課題解決のためには社会的な文脈を理解する必要がある)に気がつきました。そこで研究者などの専門家も積極的に課題解決の場や政策決定の場において社会と関る必要があると考えていましたが、実際にどのようなアプローチがあるのかは模索中でした。そんな中でSciREXセンターを知り、その糸口を探すためインターンシップに参加しました。

インターンでは新興融合領域研究のボトルネックや融合領域研究推進のためのアプローチを明らかにするため、主に新興融合領域の例であるBrain Machine Interfaceを中心とした技術調査、新興融合領域のなりたちや評価手法などに関する文献調査を行いました。インターンシップを終えて、知識のみならず、自身の専門のより幅広い社会的な影響を考える契機となったとともに、科学技術政策に携わる方々との人的ネットワークの構築ができたことが大きな成果でした。

今後も、自身の専門性を高めていくと共に、本インターンでの成果を活かして社会課題の解決策を提示・解決できるような人材を目指して参ります。

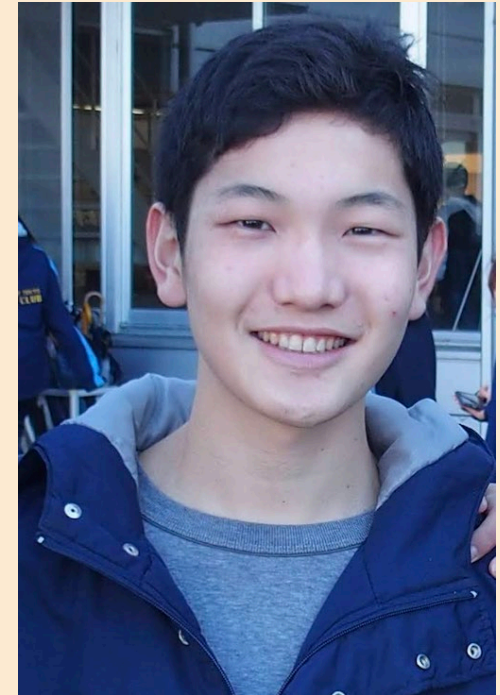


プロジェクト：「① イノベーション創出の基盤強化のためのメカニズム分析：SPIASを活用して ② 新興・融合科学領域における「予見・分析手法」の検討と人的ネットワークの形成 ③ 医療分野の特性に合った基礎研究・応用研究・実用のイノベーションエコシステム構築に資する調査研究」

2年の春学期に経済学（特に開発経済学的手法）に惹かれ、自分でも経済学に貢献できる場はないかと探す中、幸運にもこのインターンを約半年間することができました。

当初はイノベーション政策に対してどのような実験（ランダムか比較実験）ができないか模索していましたが、SPIASのデータベースを使う過程で様々な分野にも興味深い分析手法が多々あることを知りました。結果として、生物学における自己触媒反応や生態系の考え方が人間社会でのイノベーションにも応用できると考え、文献調査を土台として、経済におけるイノベーションとそれにより生じる成長をモデル化、そしてどのような政策が効果的であるのかということに取り組みました。その間、コロナ禍ということもありミーティングはオンラインでしたが、プロジェクトメンバーの方々から有益な情報やアドバイスを頂きました。これらの活動は工学部に理転するなど自身の進路を考え直し、変える契機の一つにもなり、有意義な時間を過ごさせていただきました。

最後になりますが、池内プロジェクトの池内様、佐々木様、そして度々迷惑をかけた事務の細道様・春山様、並びに他のインターン生の方々にコロナ禍の中でも有意義な時間を過ごさせていただいたことに感謝申し上げます。



プロジェクト：「科学技術イノベーション政策の経済社会的効果測定指標の開発」

私がSciREXインターンに参加した理由は2つあり、政策的観点を持った研究がしたいためと、データ分析をする力を高めたいためでした。私はプロジェクトの中で、日本の研究者の論文生産性に関する実証分析を行いました。研究資金を受け取った研究者の中で、どのような特徴を持った研究者が論文を効率的に生産するのかを明らかにしました。政策的観点から議論することができたこと、また、日本の研究者に関する数百万件のデータを扱うことができたのは、自分の成長につながった貴重な経験でした。また、インターンの中でのユニークな人たちとの出会いは、私にとって大きな刺激となりました。このインターンの経験がなければ、大学院に進む決心がつかせませんでした。ありがとうございました。



プロジェクト：「イノベーション創出の基盤強化のためのメカニズム分析：SPIAS を活用して」

私は大学院でコンピュータ科学を専攻しており，自然言語処理の研究をしています。これまで，学術論文を対象として，構成要素の認識，数式の検出，定型表現の抽出，伝達機能の分類などに取り組んできました。

SciREXセンターでは，こうした論文分析の技術を応用し論文・特許等の引用・被引用関係から学術研究のインパクトを推定することができるかを調査しました。被引用数を算出すること自体は簡単ですが，学術界における引用の慣習では，単に影響を受けた研究のみを引用するにとどまらず，広く関連研究を網羅することになっています。故に，単に被引用数を見るだけでは，その論文が直接的に与えた影響を測定することはできません。インパクトの定量的な計測がより正確にできれば，科学技術イノベーション政策の評価指標の1つとして利用することが可能になると考えています。

結果として，2019年以降引用意図分類技術が急速に発展しており技術的にはある程度可能であることが見えたものの，データの整備と合目的な引用意図体系を定義することが課題であることが分かりました。

SciREXセンターでなければ想像もつかなかったテーマであり，こうした分野にも自身の研究領域の応用可能性があることを知ることができ，大変良い機会となりました。



プロジェクト：「地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析」

インターン生として、半年間防災・災害について研究しました。

最初の3ヶ月間は、研究・データを自治体の政策立案に活用する可能性の模索を目標とし、伊勢崎市職員の方に向けた地震防災WS(ワークショップ)の開催に向けて活動しました。WSでは、地震動予測地図というデータと人口分布などを可視化し重ね合わせた地図を、歴史をはじめとする伊勢崎市の地域資源と組み合わせ、まちづくりの政策アイデアの機会領域を探りました。WS企画に携わるのは初めてで、加えて様々な分野・立場の人と協働できて大変刺激を受けました。

WS後には、東日本大震災の復興状況・制度のレビューとこれからの防災まちづくりのあり方について研究しました。もともと防災・災害の研究に関心があり、のびのびと研究させていただけたことで、防災や災害について知見を得て自分の考えを深めることができました。

本インターンを通して、自分の興味分野を深められたのはもちろんのこと、実政策に研究・データをどのように適用するか、両者を繋げて考える視座を得ることができたのはとても大きなことでした。これからの自分の学び・活動に活かしていきたいと思います。



プロジェクト：「地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析」

私は、政策について学術的観点だけでなく実務的観点から学び、理解をより深めたいと考え、本インターンに応募しました。

今回のインターンでは、「地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析」のプロジェクトに参加し、地震本部が発表している地震予測技術の利活用度に関する自治体向けアンケートの分析調査を主に担当しました。

私は文系の学部生だったので、担当業務の幅は狭くなるだろうと予想していました。しかし蓋を開けてみると、データ分析業務からバックグラウンド調査、自治体へのヒアリング調査まで非常に幅広い種類の業務を担当し、実力以上の経験をさせていただくことができ、自身のキャリア形成にも大きく関わる経験にもなりました。このような貴重な機会をいただき、担当教授の森川想先生をはじめとするSciREXセンターの職員の方々に心から感謝しております。

